

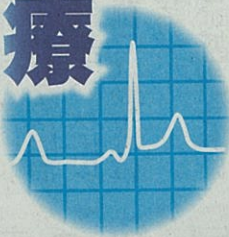
# 地域社会

少子高齢化で人口減少が進むとともに、地域のニーズは変化しており、小矢部市を含む砺波医療圏では、影響が顕著に出ている。そうした中、病院経営者と呼吸器外科医の「二足のわらじ」で、地域の要望に合った病院づくりを目指している。

黒字経営で安定を

2012年の院長就任後、時代に合わせて経営方針の転換に踏み切った。「従来は急性期医療の充実だけを目指していました。もっと高齢者に目を向け、回復期や慢性期の患者さんにも対応できるよ

## 医療最前線



▶68

北陸中央病院④ 院長 清水 淳三さん (62)



病院経営と呼吸器外科医の両立について語る清水さん＝小矢部市の北陸中央病院

しみず・じゅんぞう 福井市出身。金大医学部を卒業後、金大第一外科講師やKKR北陸病院副院長を経て、2010年に北陸中央病院院務局長、12年から現職。

### 経営と外科医を両立

急性期医療を担う位置付けの公的病院が回復期・慢性期医療も担うことに当初は異論もあったが、「社会の変化を止められない以上、病院を地域に残すためには、できることは何でもする必要があると考えました」と振り返る。改革は功を奏し、今年2月に発表した2016年度の決算で、52年前の病院開設以来

初の黒字となった。黒字経営は病院の基盤安定につながる。「安心、安全を目指すには不可欠なこと」と強調する。研究も突き詰める

自分ができることを突き詰める姿勢は、病院経営だけでなく、専門の呼吸器外科医療にも表れている。還暦を過ぎた今も、より良い手術法の研究に余念がない。手術室での経験に基づき、

ールにもなり、世界の医療関係者にとっても刺激になるでしょう」  
 医師として目指すのは、呼吸器疾患について診断から治療、場合によってはみとりまで、全て砺波医療圏で担う「地域完結型」の医療だ。  
 そのためには「より地域の患者さんが来やすい病院、ほかの医療機関から頼られる病院にしないといけない」と語る。

富山市消防局に  
消防車両を贈呈

ダイト

富山市の医薬品メーカー「ダイト」は27日、創立75周年記念事業の一環で、富山市消防局に車両を寄贈した。消防士の出勤や資機材の搬送に使われる。

車種はトヨタの「ヴォクシー」で8人乗り。消防車両用にボディを赤にして赤色灯とサイレン、無線を取り付けた。価格は475万円だった。

富山市消防局で、ダイトの廣野光常務執行役員と



ダイトが贈った消防車両

富山市消防局

谷克也執行役が、戸川治朗手渡した。昨の安全と防

富山市立  
書籍110

富山トヨ  
市)など自  
構成する品  
日、富山市  
が集めた小  
110冊を

富山トヨ  
の作田徹課  
本館を訪れ  
に寄贈リス  
清水館長は  
な交流が出

